



文蔵小通信



さいたま市立文蔵小学校

〒336-0025 さいたま市南区文蔵5-16-29

TEL 863-0721

FAX 836-1583



[文蔵小ホームページ]

文蔵の歴史を学ぶ

校長 渡邊 勝利

38 日間におよぶ夏休みが終わり、2 学期の始まりです。今年の夏も厳しい暑さが続き、猛暑そのものでしたが、きつと充実した夏休みを過ごすことができたのではないのでしょうか。また、この夏、青少年育成文蔵地区会の「地域巡回活動」が実施されました。保護者や地域の皆様、ご協力ありがとうございました。大きな事故や事件もなく、子どもたちが安全に過ごせたことを嬉しく思います。

さて、9月16日ですが、文蔵小学校の52回目の開校記念日です。そこで、文蔵小(文蔵地区)の歴史について、開校した頃を中心に調べてみました。

大正末期～昭和初期	文蔵地区 74 件の農家 (文蔵小学校郷土資料室資料より)
昭和 25 年(1950年)10 月	文蔵地区世帯数163件 ※文蔵小学校の前に通称を鯉屋さんと呼ばれた家が一軒あっただけで、あとは一望田んぼになっており…どうしようかと思うほど淋しい田舎道でした。(創立10周年記念誌『文蔵』より)
昭和 36 年(1961年)7 月	南浦和駅開設 ※東京などへの通勤には、浦和駅まで自転車か歩くかで、舗装道路は一本もありませんでした。道路は草ぼうぼうで、でこぼこ道ばかりで、水道も引かれていません。(創立10周年記念誌『文蔵』より)
昭和 37 年(1962年)8 月	文蔵地区世帯数488件
昭和 47 年(1972年)1 月	文蔵地区世帯数約3000件
昭和 47 年(1972 年)4 月 1 日	仮校舎にて開校(旧南浦和中学校跡の校地・校舎を使用) 児童数 558 名 学級数15学級 職員数 20 名 ※文蔵小が開校するにあたり、旧南浦和中のほこりだらけの校舎の掃除、南小より机、腰掛を移動しての各教室の整備等…「文蔵小学校はぼくらの学校だ」という心意気と力によるものであった。(第1回卒業文集『文蔵っ子』より)
昭和 47 年(1972 年)8 月 28 日	新校舎に移転を完了し、9月1日より授業を実施 ※夏休み中の暑いさなかの新校舎への移転、ワックス落とし、雨の日の廊下での落成式…一生涯忘れることのない、心のともしびとなりましょう。(第1回卒業文集『文蔵っ子』より)
昭和 47 年(1972年)9 月 16 日	落成式を挙行、この日を開校記念日と制定 校章制定(6月に地区在住者に公募し、南部章氏の作品を採用) ※典型的でないこと、そして、明るくたくましい文蔵っ子を象徴し、力強くバランスのとれた形態にまとめることを意図した。
昭和 48 年(1973 年)2 月 24 日	校歌制定(作詞 神保光太郎氏 作曲 富田政牧氏)
昭和 48 年(1973 年)3 月 23 日	第1回卒業式挙行(卒業生 男 32 名 女 43 名 計 75 名) 観察池、築山完成

写真やデータは、校長室や文蔵小学校郷土資料室から文献等を探して引用したものです。紙面の関係で全てを載せることはできませんでしたが、文蔵小学校が開校し、今日に至るまで、どれだけ多くの困難があったのか、どれだけ多くの方々に支えられてきたのか、改めて知ることができました。今、文蔵小学校があるのは、こうした先人たちの功績があったからですね。

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」

これはドイツの宰相であるオットー・ビスマルクが残した言葉です。歴史を学ぶ大切さを述べたものです。1人の人間が学ぶことには限界があります。そこで、歴史を学ぶことにより、たくさんの先人たちが経験したことが効率的に学ぶことができます。

先人が繰り返してきた多くの成功や失敗の貴重な経験を、歴史を通して学ぶことができるのです。さらに、歴史を学ぶことにより、自分の地域や国について理解を深めることになり、自分自身を知ることにも繋がります。

歴代の17人の校長先生、多くの教職員、6342人の卒業生、地域の方々にとって誇ることができる文蔵小学校であり続けるために、今いる教職員一同、力を合わせて文蔵小学校の発展に努めてまいります。今後とも、ご理解とご協力のほど宜しくお願い致します。



建築中の文蔵小学校



第1回卒業式